明善同窓会関東支部 会報

発　行：明善同窓会関東支部
会報発行委員会
事務局：世田谷区上馬 1-13-3
電　話：03-3421-6071

明善同窓会関東支部に寄せて

第二十一代　校長　石井利男

今年は例年になく桜の開花が遅れ、満開の桜の下での入学式となりました。

関東支部の皆様におかれましては、ますますお元気でご活躍になっておられることと拝察申し上げます。

皆様には日頃より、母校の現役生に対し温かいご支援を賜り心から御礼申し上げます。就中、本校修学旅行の東京研修におきましては、支部の多くの先輩方に企業訪問等でお世話とお心遣いをいただき感謝申し上げます。

お陰様で、探求型の国内修学旅行に切り替えて2年目にあたる昨年の修学旅行は、様々な出逢いと交流、また、再会の契機ともなり、1年目にも増して生徒達の満足度も高く、非常に充実したものになりました。

本年度も、これまでの蓄積の上に先輩方と後輩の現役生の交流の輪をさらに拡げ、充実した研修にしたいと考えていますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、夏季休業中には定時制の陸上部とソフトテニス部の全国大会出場に際し、別府会長をはじめ、多くの皆様に応援に駆けつけていただきありがとうございます。

こういったお心遣いが厳しい条件の中で頑張っている定時制生徒諸君は勿論のこと、我々職員にとっても大きな励みとなります。

日々の教育活動を行う上で大きな勇気をいただきました。本当にありがとうございます。

東日本大震災は、九州に住む我々は直接の被害は免れましたが、国立大学の後期試験に仙台や東京に受験に行った生徒が地震や津波による混乱に巻き込まれたり（幸い無事でした）、福島県から一人の生徒を受け入れるといったことがありました。

生徒達も大きな衝撃を受け、生徒会が早速募金活動を校内で行ったところです。

この度の震災で東北地方の人々に日本人としての美質が色濃く残っていることを改めて知ることになり、むしろ逆に、無傷の我々の方が勇気づけられ、我々日本人が依って立つべきところは何であるか改めて考えさせられた思いがいたします。

生徒諸君には、復旧・復興にはこれから長い時間がかかると思われることから、被災した人々に長く心を寄せ続けることが大事であること、そして何よりも、日本の復興と再建の担い手の中心になるべく、しっかりと力を蓄えることが大切であることを呼びかけたところです。

本校としては、ますます教育活動を充実させ、社会を力強く支えることができる人材を輩出することが使命であることを改めて肝に銘じなければならないと思っています。

母校に着任して3年目を迎えます。教職最後の一年を母校で過ごすことのできる幸せを噛みしめています。

日々感謝しながら、一日一日を学校のために大切に過ごすことで母校から受けた恩に報いたいと考えております。

本年度も皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

明善同窓会　会長ご挨拶

同窓会長　41年卒　真木大樹

3月11日に発生致しました東日本太平洋大震災という未曾有の災害におきまして、被災されました明善同窓及び関係各位に対し、衷心よりお見舞いを申し上げます。

さて明善同窓会関東支部の皆様には、明善高校及び同窓会本部に対しいろいろとご協力やご指導をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。

大震災の翌日、3月12日は九州新幹線鹿児島ルートの全線開業ということで、多くの祝賀行事が行われる予定でしたが、突然の大震災によりほとんどの祝賀行事が取りやめとなってしまいました。しかし、新幹線久留米駅の完成とともに、東西を結ぶ自由連絡通路も完成し、京町在住の私にとって大いに便利が良くなり、喜んでいるところであります。先日岡山から新幹線「さくら」に乗車する機会がありましたが、博多で乗り換えなしで久留米に着いた時は何とも言えない気分でした。但し、久留米に止まらない列車もありますので、くれぐれもご用心…。

次に、明善高校の校舎改築の件ですが、今年度に本設計が行われ、平成24年度にはいよいよ改築が始まる予定です。ローリング方式で工事が進められるようで、A棟を壊してそこに新しい校舎を建て、次にB、C、D棟の順で建てかえるという具合のようです。耐震のための建てかえというものの、今般の東日本の大震災を考えますと、一刻も早く建設されますことを願っております。

今年6月に予定されております、恒例の明善代議員総会に提案することもいくつかございますが、関東支部の同窓各位のご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。明善関東支部の皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、更なるご発展を祈念申し上げごあいさつと致します。

激甚災害お見舞いと活動方針

関東支部会長　別府秀喜

東日本大地震からやがて3ヵ月、被災地では大きな槌音が鳴り響いています。ご存知のとおり、日本最大級M9.0の大地震と悪魔のような大津波は家屋やビルを瞬く間に崩壊させ、漁船や自動車を軽々と押し流し、家族や友の尊い命を奪い去りました。お亡くなりになられた方々のご遺族には衷心からお悔やみ申し上げます。一日も早い復興を念願するばかりです。

平成5年卒業の平田大輔君（太刀洗出身。野球部）が石巻で被災しました。家族5人は命からがら逃げ、幸い九死に一生を得て無事でした。しかし、昨秋、新築したばかりの家は損壊し、無残な状況になったとのメールが仲間から届きました。野球部同期を中心に支援の輪が広がり、同窓会関東支部、各年次から多くの篤志が集まりました。特に41年卒「よいかい」の皆様には温かいご支援をいただき、平田君に成り代わり御礼申し上げます。

さて、昨年7月の就任時に「組織の維持発展のために、先輩諸氏の経験と知恵を拝聴し、若い諸君の参加を促したい」と申し上げました。本年度は従来の活動を更に進めるため「5つの基本方針」を掲げました。①組織基盤の強化と世代を超えた会員相互の交流促進、②委員会活動の継続と活性化、③他高校同窓会との交流促進、④関東支部の存在意義の周知、⑤情報発信ツールの整備と情報発信の積極化、です。

この方針の基づき、各年次の代表が幹事として月1回（第3木曜日）、サンシャイン60「緑丘会館」に集い、各委員会の活動報告や懸案事項の協議、総会に向けての準備など、明るく楽しい運営を心掛けています。飛び入り参加は大歓迎です。時間の許す方は是非とも覗いてください。

活動の一部をご紹介します。●母校関連＝①現役生徒修学旅行時の企業訪問協力。②本年から始まる校舎大改修工事への協力。同窓会本部と連携し積極的に支援。●関東支部HP再構築＝S45年卒・古賀尚之君が尽力。各位のアクセスを待っています。●イベント＝①S56年卒・村上佳代さんソプラノコンサート（4／29）。②第5回懇親ゴルフ大会（5／28）を被災地隣接・茨城での開催。●関東支部同窓会「総会・懇親会」（7／9）＝S58年卒の諸君が精力的に準備中です。乞うご期待！●他校交流＝①久留米の他校東京地区同窓会出席交流。②各校横断組織・高年礼会運営支援。③秋田高校野球部OB会「矢留会」と第4回交流試合（11月）。●市・県関連＝①久留米市主催つつじ会運営参画。②福岡県人会創立60周年記念行事（9／29）協力…など。

卒業生には多様な分野で足跡を残された先輩や活躍中の現役諸君が大勢います。縦も横も、夫々の立場で関係をさらに深め、同窓会に集う者が強い〝絆〟で結ばれることを念願しています。

同窓会を通じて一人でも多くの先輩や後輩、仲間と〝輪と和〟を広げませんか。7月9日（土）霞ヶ関ビルに是非ともお誘い合わせのうえご参集ください。宜しくお願い申し上げます。

この原稿が皆様のお手元に届けられる頃には、余震も福島原発放射能拡散問題も収まり、安全で安心できる平穏な日常生活に戻っていることを願って止みません。

第44回明善大同窓会へのお誘い

第44回実行委員長　51年卒　仰木伸介

今年3月11日の東北地方太平洋沖地震により被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

○日　時　平成23年10月22日（土）　14時30分開始予定
○場　所　創世（久留米市櫛原町）
○テーマ　「明善　未来を拓く、私たちのキーワード」

明善同窓会・関東支部の皆様、こんにちは。本年度の当番は明善51会（昭和51年卒業）が担当させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

今年の大同窓会のテーマは「明善　未来を拓く、私たちのキーワード」に決定させていただきました。ご承知の方も多いかと思いますが、学舎である明善高校の校舎が順次建て替えられていくことになりました。想い出ある学舎が消え行くことに寂しい思いをしておりますのは当番会のみならず、すべての卒業生の皆様の共通の想いでありましょう。時は流れるもの…。しかし、学舎は消えゆくとも、卒業生の「明善」に対する熱い思いとその伝統は脈々と未来へと受け継がれて行きます。今回のテーマにはそのような想いを込めました。

今年の同窓会は、参加者の皆様により親交を深めていただくことを主眼におき、時間の許す限りゆっくりと会話を楽しんでいただける企画や心に残る記念品を考案しております。シンプルな中にも皆様の心に染みる同窓会を目指して準備しております。

当日は、51会が心からのおもてなしで皆様をお迎え致します。久しぶりに久留米に里帰りしていただき、旧友の皆様と親交を深めていただければ幸いです。時間にゆとりのある方は、新しく開通した九州新幹線の久留米駅や明善高校へも足をお運びいただき、古き時代を懐かしみながら新しき時代への移り変わりを感じていただければ幸いです。

最後に、今年の同窓会の日程につきましては、何とか十月初旬の連休中に開催したいと一年以上前からホテル側と調整をして参りましたが、日程の都合により22日（土）の開催となりましたことをお詫び申し上げますとともに、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。関東支部の皆様のご来訪を心よりお待ち申し上げております。

痛そうな階段

2月の明善同期のネット掲示板に、体育館や武道館を除いた明善高校の全校舎が、平成24年度から改築されるという情報が入った。我々の頃にはまだ北校舎が健在だったので、あの木造校舎の柔らかさが1年生のみずみずしい気分と混ざり合い、共学たる明善高校の記憶の半分を占める。が、その北校舎は卒業間もなく、南北を仕切ったバス路とともに消え去った。今度改築される全校舎とは、要するに我々の「南校舎」のこと、いや、正確に言えば北校舎の代わりに南校舎の運動場側に建て増しされた部分も含むのだろう。

正直言って残念。北校舎に続き南校舎までなくなれば、古巣を失うような寂しさを覚える。が、それは不遜というもの。卒業して30年は完全に忘れ去り、人生の後半に入ってから勝手に懐かしがっても、主役は毎年の高校生。明善はノスタルジーのために存在するわけではない。新時代を祝福しつつ、校舎の最後を心に留めればよいことだ。

明善のHPによれば南校舎の本館鉄筋3階建ては1956年4月竣工。もう55年も働いているのだが、…ということは我々70年卒業生が入学した時はまだ11年??? どうやら戦争前から始まった中学明善校の新築工事が戦争中に一旦竣工し、すぐに一部が戦災に遭っているらしい。更に53年に本館・教室1棟焼失とある。従って56年に南校舎は使える部分を利用して完成したのだろう。

そういえば、半地下の食堂はとても10年程前にできたとは思えない薄暗さだったし、運動場から校舎に入る売店のあったアーケードも、もっと古色蒼然としていた印象。そしてその西側の建物の廊下の高さだけが妙に喰い違っていたような気がする。とはいっても、我々が通ったその頃は、南校舎の歴史のまだ前半だったことになる。

3月末に帰省したので、石井校長が同期生であるのをいいことに、学校に行事のない3月30日（水）の午後、友人4人を誘って校舎を訪問させていただいた。

私にとって南校舎は、教室よりも、あの無愛想な校舎の造りが印象深い。記憶では外装は味気のないくすんだコンクリートだったが、今は少し明るくクリーム色がかっている。私が南校舎と聞いて最初に連想するのは、転んだら痛そうな、冷たく広く重厚な階段、それに天井の高い廊下。ありました、ありました、巨大な手すり。校長先生によれば、あまりに堂々としているのでよく大理石と間違えられるが、本当はコンクリートらしい。それでもぴかぴかに磨き上げられていた。趣があるので、建て替え時には一部を記念に残すかもしれないとのこと。そして、正門に向いた並びの廊下の西端に、やっぱりあった段差。在校時は何も考えなかったが、きっと建て増しした時の名残だろう。

地下の（旧）食堂へ向かうスロープが懐かしかったが、よいしょっと跨いで入った暗い入り口は今は閉ざされ、倉庫にでもなっているのだろうか。30円のチェリオの方がファンタより量が多かった。ソース焼きそば、カレーライスが、店番のおばちゃんとともに懐かしい。その食堂は、正門脇に建て替えられた図書館の1階に移動したらしい。

今はなぜか細かいことから思い出してしまうが、じつは明善の3年間はそんなことどうでもよくて、生活すべての場面が、今よりずっと色濃く、多彩だったような気がする。思い起こす先生方はみな個性豊かで、そして老成して見えた。しかしどなたも、今の自分より若かったはず。自分が、世にどれだけのことを刻んできたか、忸怩たるものがある。

（昭和45年卒　正木春彦）

69会発足20周年と還暦を迎え

明善同窓会関東支部の皆さま御無沙汰いたしております。昭和44年卒剣道部に所属しておりました髙島です。まずは、この度の東日本大震災で被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、被災でお亡くなりになられた方のご遺族には謹んでお悔やみを申し上げます。さて昨年は、私達69会（44年卒）にとっては、還暦を迎える慶びの年であり、また我々69会発足20周年という記念する年でありました。

私達69会が発足したのは1990年。メンバーが40才となる年で、男子にとっては仕事が軌道に乗って来た頃、女子にとっては、子育てが一段落した頃で、皆が故郷のことを懐かしく思う時期でありました。その頃同期の一部は小グループでは集まっていたようですが、全体の同期会ではなかったこともあり、瀬戸君と私が騒ぎ始め、幹事を澤君（現NTTコムウェア副社長）にお願いし、原宿のイタリア料理店で第1回が開催されました。確かその時は、約100名が集まったと思いますが、20年以上会わなかった仲間に再会した時の強烈な印象は今でも鮮明に記憶に残っております。最初は、「次は2年後に会いましょう」といっていましたが、翌年には「2年は待てない」と言い、2年後には、「1年は長すぎる」といって、半年に1回と「なにかに託けては集まる」集団となりました。さすがに3カ月に1回となると新鮮味もなくなる為か、その後は1年に1回のペースに戻りました。しかしまたここ数年、「会員が暇を持て余している?」せいか年2回の同窓会の他、「春の散策会」「ゴルフ同好会」とまた霧島新燃岳の噴火のように活発化しております。特に昨年は「春の散策会」の後、7月12月の同窓会、年2回の宿泊ゴルフコンペと家内もあきれるほどよく集まってましたが、何といってもその極め付けは、久留米に戻りました空閑君（筑邦銀行常務）を代表幹事として2010年9月11日～12日に開催された「1泊2日お伊勢さん参り還暦ツアー」だったと思います。9月11日、九州、関西、名古屋、関東、L.Aから総勢69名（正に69会）名古屋駅に集合し、高校生時代以来のバス旅行が始まりました。伊勢神宮では多田君（梨木神社代表役員宮司）の口利きで、一般人ではめったに参拝できない内宮の中で全員拝礼することが出来、（多田君に感謝！）その後、鳥羽の戸田家に泊まり大宴会とまさに「還暦の修学旅行」となりました。翌日は、①伊勢神宮周辺散策②鳥羽湾観光③ゴルフと3班に分かれ行動しましたが、特にゴルフ班は、その日のゴルフ場の気温、なんと37℃！　立っているだけでも熱中症になる状態の中、我が明善健男児は誰一人としてリタイヤすることなく戦い抜きました。その日は夕刻名古屋駅で散会となりましたが、参加者は皆笑顔。精一杯遊び、思い出に残る同窓会となりました。

私は、このような催しを企画し集う同期の纏りに「明善の絆」というものを強く感じるとともに、改めて「明善」の生徒であったことを誇りに思う次第です。

伊勢神宮内宮を参拝した後、42年前の美女から「髙島君、またここに来るとしたら古稀の時だよね！その時はこの中で何名が来れるんだろうね?」…といわれ「ふ～」と現実に引き戻される自分がそこにいました。思えば野球部の堤くんが癌で亡くなって4年。昨年も西鉄に勤めていた樽見君が、今年も九電の役員をやっていた荒巻君が亡くなりました。我々69会のメンバーもこれから櫛の歯が欠けるように少なくなってくるでしょう。しかしながら、我々69会のメンバーは明善の校訓「克己・尽力・楽天」の教えのとおり、今までは、東京という見知らぬ土地で、怠けず、己の力を尽くし、60歳という年を迎えることが出来ました。これからは、天命に従い、皆で楽しく過ごしていける会としてこの会を永く続けていけるようメンバー全員頑張って参ります。

（昭和44年卒　髙島隆明）

東大バーに集合す

最初にこのたびの震災や原発事故で被害に遭われた方に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興の日が迎えられるよう祈念しています。

さて、母校の校舎が立て替えられるらしい。

北校舎に続き、今度は南校舎が姿を消す。

北校舎は、校舎も門もなるほど旧女学校らしく落ち着いたたたずまいだったが、南校舎はやはり男らしく、無愛想であった。そして、背の高い門は威圧的でさえあった。

ところで、東京で門といえば、赤門を挙げる人は多いだろう。前田百万石上屋敷の門である。とても大学の門とは思えない。よほど社寺の山門といった方がふさわしい。

昨年、秋も深まったある土曜日の夕方、我々昭和45年卒20名ほどがその門の前に集合した。目的は東大バー訪問。なんと東大にバーがあるという。

参加者が揃い、門の中に入ると、案内役の正木君がどこからともなく登場。まさか東大教授が自転車で出現とは思わなかった。

教授は我々を引率して、まず三四郎池に向かう。秋の夜はつるべ落とし。池を巡るときは、もう足元が覚束ない。不思議な空間。作られた都会の自然。池の向こう側には、本当に美禰子がベンチに腰を下ろしているような気がした。

三四郎池を抜けて、安田講堂へ。安田講堂といえば、東大紛争。あの時、ブラウン管の中の安田講堂は凶暴であった。だが、今回、目の前にある安田講堂は去勢されているように見えた。少し哀しさを感じたのは、秋の風のせいかもしれない。そして、我々は農学部へ。数年前のこの時期、銀杏の枯れ葉の絨毯がキャンパス一杯に広がっていたが、今回は、猛暑のせいか、その美しい風景はなかった。

農学部門の横にある農学資料館は、既に閉館の時間であったが、入館することができた。だが、照明のスイッチの位置が分からない。ぼんやりと忠犬ハチ公の飼い主だった上野教授の胸像やその他の教授たちの写真があるのが分かったが、他は薄暗くて何がなんだかはっきりしない。薄気味悪くて早々に退散。

そしていよいよ東大バー。キャンパスの奥まった建物の2階にそれはあった。ホテルのラウンジバーのような雰囲気だ。

木目調の落ち着いた雰囲気の中で、ワインやビールのグラスを空け、そして語る。

高校時代の友人と飲み語るのは本当に楽しい。あっという間に予定の時間が過ぎてしまった。

飲み語る場所は、東大バーだけではないのだ。ほぼ全員が、東大を後にしてタクシーに分乗し、次なる宴の場を目指す。

（昭和45年卒　井上正則）

秋永佳世ソプラノリサイタル、東京オペラシティリサイタルホールで満員の聴衆を前に堂々の美声で魅了！

56年卒秋永佳世さんの東京リサイタルが平成23年4月29日、新宿に近い東京オペラシティのリサイタルホールであるれるばかりの聴衆を前に美声のソプラノで、ジョルダーニのカロミオベンをはじめヘンデル、ロッシーニの歌曲を歌い、聴衆をその美声の波にうっとりとひたらせた。

第二部ではヴァイオリンの有馬希和さんの賛助出演を含め、グノー、カッチーニ、マスカーニのアヴェマリアを歌い、ドボルジャークの2曲の次に最後は全員による「故郷」を合唱して盛会裡にコンサートを終えた。

東日本の大震災で一時は演奏会を開くべきかずいぶん迷ったとあいさつで述べているが少しでも心を軽くし励ますことができたらと被災地の皆さんへの義援金もお願いしてコンサートを開いたという。

秋永さんは久留米市の出身、56年卒だが芸術大学声楽科を卒業、同大学院修了。新人音楽コンクールにおいて大賞及び文部大臣奨励賞を受賞、副賞としてウイーンへ研修留学、91年からイタリア、ミラノで研鑽を積んだ。

2010年には里帰り公演「秋永佳世～故郷で郷愁を歌う」を久留米市で公演、絶賛を博した。

さまざまな合唱団、「すまいる」「こすもす」（世田谷区）の指導もユーモアを交えた柔らかい指導ぶりで評判がよく人気が高い。

（昭和21年卒　樋原茂則）

スカイツリー周辺を歩く

4月26日の朝、ポカポカの陽気に誘われて老妻と「スカイツリー」見物に出かけた。

北千住で東武電車に乗換え曳舟駅で降りる。改札口を右に出た途端「エッ！」と驚いて声を出した。続いて出て来た老妻も「ワァ！何これ凄い」と叫ぶ。遠くで見るのとは桁違いの迫力で聳えるスカイツリーであった。

暫く眺めて、スカイツリーを左に見ながら線路沿いに業平橋の方へ歩く。工事中の2機のクレーンがバンザイをするかのように両手を上にあげていた。

業平橋駅を左に折れると、駅舎と北十間川の間に天空を貫くように建っているが、未だ工事中で近付けない。見上げていたら首が痛くなった。

北十間川を渡ると浅草通り。若い女性が3人、蹲みこんで写真を撮っていた。北十間川は墨田区一番の人気スポットだそうだ。

業平橋で大横川の水辺に下りると、そこは親水公園で釣り堀になっていて、男性数人が釣りをしていた。下流は錦糸町から先も緑道公園のようである。せせらぎの素敵な親水公園なので横川橋まで歩き、春日通りに出た。少し腹が減って来たが適当な店はないし、スカイツリーが良く見えるので、スカイツリーを眺めながら亀戸天神まで歩くことにした。暫く歩くと横十間川に出る。水辺が遊歩道なので、水辺を天神橋まで歩いて蔵前通りに出た。

天神橋のたもとは水上バスの船着場だが、現在使われていない。先ずは見事に咲き誇る藤の花を堪能して、天神様にお参りをした。

遅い昼食の後、少しばかりの買い物をして、JR亀戸駅から帰途に着いた。

曳舟駅から亀戸駅まで随分歩いたと思ったが、歩数計では、八千歩程であった。次回は、亀戸から浅草まで北十間川を歩いてみようかと思っている。

（昭和27年卒　井上正夫）

ボルテージ高まる同窓会

一昨年の久留米大同総会の二次会で出た東京ディズニーランドでの同期会提案が発端になり、昨年5月29日に関東と九州の合同同窓会をミッキーマウスに迎えられ開催しました。シンデレラ城をバックにした写真はこの時のものです。夜の部からの出席者も増え、園内のclub33でフランス料理に舌鼓し、ワイン片手にエレクトリカルパレードを眼下に見て、名物の花火に皆で酔いしれました。

7月には関東支部の大同総会、8月の盆休みに帰郷しての同窓会、いずれも昼間からの酒宴でへべれけちゃんちゃんになっていたので、はっきり記憶していませんが、「今年はもう一回集まろう」と企画したのが麻布での忘年会です。12月11日の52卒忘年会は麻布の海老蔵ビル近くで九州からの参加者も交え、盛り上がりました。初っ端からボルテージ高く延長を繰り返し、面目ない事ですが記憶を亡くして現世に戻ったのは六本木通りでの記念写真の時でした。

52卒同期は日本全国各地にいます。12月8日は関西支部が忘年会でしたし、年が明けて1月には東海支部も立ちあがったそうです。今年に入って久留米の52卒同期会本部が6年ぶりの集まり企画し、3月5日に創生に150名が集まりました。執行校長をはじめ担任の先生達を交えての集いです。二次会はカラオケに100名、そのまま文化街になだれこみました。締めは当然久留米ラーメンです。

東京へ戻った翌週に起きたのが東日本大震災です。4月にはまた集まろうとも話していましたが、高揚した気分も打ちのめされた感があります。しかしこれじゃいけない。

〈日本は決して屈しない〉手を取り合い、共に戦おう。そう思います。

（昭和52年卒　池田和也）

43会　元気な同期会いつまでも

毎年同期会をやっています。出席メンバーの8割以上は常連になっています。ここ2、3年は海外勤務から日本に帰ってきた山下政晴君（印度から）や、中国勤務が長かった石井一秀君等が参加し常連になりそうです。早くも引退した人もおり、まだまだやる気のある人もありでなかなか面白い。

昨年も11月13日、恵比寿ガーデンプレイスの銀座ライオンでビール、ワインを酌み交わしながら一夜の交友を深めました。引退した人の年金話や、引退後の悠々自適ぶりが羨ましくもあり、まだ現役の自分には、なにか縁遠い話に思えました。話の半分は孫の話、健康談議、年金の話など。

二次会は例によってカラオケ。恵比寿駅近くのカラオケ店に時化こんで、高校時代や学生時代に覚えたフォークソングや、グループサウンド、又演歌あり。時の過ぎるのを忘れて歌い、且飲み、且談笑し、昔話に花を咲かせ、喉を震わせ絶叫するもあり。はたまた過ぎし青春の思いに、束の間耽り、ふと酔眼をめぐらせば、白髪頭あり、禿頭あり、またあるいは太鼓腹あり、過ぎ去りし時の長さを思い知るの時、何時しか夜は更けて、はや別れの時に至りぬ。「高校三年生」を高らかに歌い、別れを惜しむこと三度。いざ、さらばまた逢う日まで。三々五々、後ろ髪惹かれつつ家路へ…。

（昭和43年卒　津城俊幸）

我が家の被災日記　IN　浦安

一人当たり個人市民税、芦屋市、武蔵野市に次いで全国3位、「住みたい街ランキング」でも常に上位、Disney resortを擁するブランドの街、浦安。そう、確かにあの日までは。

3月11日、その時は突然にやって来た。2階の部屋でギターの練習中。震度5強。恐怖を覚えたのは、その揺れではなく音。家全体がギシギシと悲鳴を上げていた。揺れが続く中、一階に下り、夫はTVで情報収集、私はというと、ギターとなぜかコーヒーカップ片手に突っ立ったまま。家の中は不思議と家具も細長いガラスの花瓶も倒れはしなかった。揺れが収まって外に出ると、住宅街のあちらこちらで水道管破裂、地割れ、陥没、液状化が起きていた。水道、ガスは即ストップ。我が家では、飲料水の備蓄は十分にあったものの、トイレの水は流せない状態に陥る。夜、Disneyからの帰宅難民の女子高生2人を保護、一晩家に泊める。

3月12日、市の3分の2が埋立地、その上に広がる新市街地では、軽重の差はあれ一戸建ての住宅の約9割が傾き、街全体の平行・水平感覚がずれ、何か支柱を失っている感じ。一方、道路1本隔てただけの旧市街地にはほとんど被害なし。公園の水汲み場から非常用のポリ袋でトイレ用の水を確保。この日から、自治会では、住民協力しての土砂の運び出しが始まる。

3月13日、噴出した土砂が砂埃となって街全体を覆い、息苦しさを覚える程。旧市街のコインランドリーを回ったが、どこも混雑、洗濯は断念。午後から自衛隊による給水が始まり、水汲み作業、10往復。トイレの心配は解消したかに思えた。

3月14日、水道は仮復旧したが、ガスは依然としてストップ。IHでお湯を沸かして軽く体を流す。被災地浦安も計画停電に組み込まれたが、この日は実施されず一安心。

3月15日、下水管が破損しているので生活廃水を流さないようにとの市からの連絡。万事休すの感。原発の心配もあり、長崎平戸の姉宅に避難を決心。車で出発するも、御殿場で震度6の地震に遭遇、車での移動は諦め、翌日の午後の便で福岡に飛ぶ。夕方6時過ぎ平戸着。21時間の避難劇となる。

4月16日、ライフラインの仮復旧の知らせで、1カ月ぶりに自宅へ戻る。庭は狭いながらも満開の花々に彩られ、いつもの盛りの春である。しかし、我が家の傾きは約1%、心身に影響を及ぼす程ではないが、やはり苦痛ではある。修復にはかなりの時間とお金を要するだろう。この間、日本だけでなく、海外の友人達からも心配や励ましのメールが届いた。ドイツからの写真リポートの見出しが〈DIE APOKALYPSE〉（黙示録、滅亡）だった事からも今回の大災害が全世界に与えた衝撃の程が知れる。（普通、大災害はKATASTOROPHEを使う）いつでも避難して来いとのメールも一つや二つではない。

先日、Disney resortが再開された。しかし、波乗り道路、傾いた電柱、塀等々、災害の爪痕は深く、街中に工事車輛が行き交う。わが街浦安が元に戻るのはいつの事であろうか。ただ一つ確かな事は、この大震災は数々の教訓と共に、これまでややもすれば連帯感が希薄だった新市街の住民に新たな絆をもたらした事。それが、溶けだした大地に住む私たちの未来への支柱となることだろう。

（昭和41年卒　粉川美穂子　5月3日浦安にて）

学年幹事の選出のお願い

関東支部では現在、以下の役員を中心に活動しています。実動は各学年幹事にも精力的に活動いただいております。現在、学年幹事不在の学年もありますので、自薦推薦にて選出願いたい。幹事不在の学年は、昭和33年卒、34年、36年、39年、40年、59年以降です。よろしくお願いいたします。関東支部ホームページからご連絡願います。

（幹事長　44年　瀬戸渡）

会長	別府　秀喜	（S41年卒）
副会長	土肥　善政	（S31年卒）
副会長	草場　正登	（S37年卒）
副会長	加藤ムツ子	（S42年卒）
幹事長	津城　俊之	（S43年卒）
事務局長	瀬戸　渡	（S44年卒）
事務局次長	樋原　茂則	（S21年卒）
事務局次長	高田　孝	（S45年卒）
監査役	五十嵐恵美子	（S47年卒）
監査役	本村　龍史	（S46年卒）
監査役	石橋　克郎	（S53年卒）
顧問	尋木　浩司	（S61年卒）
顧問	泉　信也	（S31年卒）
顧問	古賀　一成	（S41年卒）
相談役（元会長）	大久保　勉	（S54年卒）
相談役（前副会長）	井上　正夫	（S27年卒）
相談役（前会長）	妹川徳太郎	（S29年卒）
	松平　信之	（S31年卒）

平成22年明善高校関東支部同窓会の幹事を振り返って

先の東日本大震災では、体験したことのない揺れや原発事故での放射能に対する恐怖や被害の甚大さ、日常がそうでなくなったことへの焦りや不安など襲われている日々ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。まずは、被災され未だに日常を取り戻せず避難所生活を強いられている方々に心よりお見舞いを申し上げるとともに、東日本在住の明善高校同窓生の無事を切に願っております。

前年の引継ぎ資料（段ボール2個）が、不幸？　にも自宅に送られてきたこともあり、私が準備段階を立ち上げるはめに。明善高校同窓生で〝お荷物学年〟と言われたS57卒（私が17年前、前職で同窓会館を訪問した際、応対していただいた年配の女性から〝元気だけが取柄の学年〟というありがたい言葉をいただいた）が果たしてこの大役を果たせるか不安との闘いでしたが、終わってみれば、偏差値は低いながらも、特異？な個性や能力はそれなりに持ち合わせている学年ということなのでしょうか。同学年の笠さんによるあっぱれな講演会、〝人を集める〟、〝余興を考える〟、〝お金を計算する〟、〝人前で話す〟、〝文章を書く〟、〝人をまとめる・盛りあげる〟など。

私個人としては、自分達が企画した同窓会とそれまでの同窓会との違いは何か、はたして成功したのか、終了当時から自問自答。未だにその答えは見つかっておりません。ただ、同窓会とは行く途中1年前と今の自分の変り様を振り返り、会場では変わらぬ先輩・後輩・同級生との再会に盛り上がり、帰り道では1年後の自分の有り様と、皆が変わらないことを願う場。結局同窓会とは、毎年同じ時期に当たり前のようにやってくる〝真夏の正月〟みたいなもので、成功・失敗などはない。幹事の役目は同窓生にそのような当たり前の場を準備するだけのこと。もうすぐ1年が経過しようとしている今、震災を経験したこともあるのか、何となくそのように自分に言い聞かせている次第です。

（昭和57年卒　中川原伸章）

今年の総会担当です。

私は大学が長崎で卒業後も東京とは無関係でしたが、2001年に上京してまいりました。昨年まで明善同窓会関東支部の存在を知りませんでした。昨年、クリニックで診療をしているときに、まったくの偶然から55年卒の上野智之さんと知り合いになり、関東支部の存在を初めて知った次第です。クリニックが忙しく定例会には昨年1回顔を出しただけですが、その定例会で本年の関東支部総会の幹事学年になるということを知りました。現在、今回代表幹事をお引き受けいただいた安藤聡君と準備をおこなっております。

さる4月26日、昨年総会幹事をしていただいたS57年卒の中川原伸章先輩にご足労いただき、同級の安藤聡君、星野泰範君、橋本光弘君、金田（旧姓笹田）尚子さんと私の6人で渋谷の居酒屋にて最初の会合を持ちました。昨年の幹事は最初に12人集まったそうで、これから、東京在住者を探していかないといけません。もっとも難航するのが講演会の講師でしたが、今回は私の3年生の同級生でその後も付き合いがあるつくば市の物質・材料研究機構先端的共通技術部門 高分子材料ユニット ユニット長の一ノ瀬泉君にお願いすることになりました。「ナノの世界での水のお話」というタイトルでお話いただきます。一ノ瀬君はこの分野では世界的に有名で、おもしろいお話が聞けるはずです。皆さんご期待ください。

（昭和58年卒　豊福一朋）

第3回秋明戦開催、明善念願の初勝利

明善高校野球部OB会【明球会】と秋田高校野球部OB会【矢留会】の第3回秋明交流戦が11／20（土）、12：30から東大球場で開催され、明善が22対11で快勝した。対戦成績は明善の1勝2敗。

試合は秋高が先攻。初回、明善・大石投手の立ち上がりを攻められ5点先制された。〝今年もまたか〟と思われた初回だったが、明善はその裏2点、2回2点、3回8点、4回7点と猛打爆発。田中、大石の2本のオーバーフェンスを含む全員安打で18安打・22点をたたき出し、過去2年間の溜飲を下げた。

2連敗中の明善は「今年は勝つ」と強い気持ちで試合に臨み、40・50代の若手？

中心の全員野球が奏功。甲子園出場組を多数擁する秋高の初回5点に動じず、秋高投手陣を攻めに攻め、打撃戦を制した。

試合後、恒例の懇親会が御徒町駅そばのビアホールで賑やかに開かれた。両校とも野球部以外の応援団を含め、長老から若手まで今若者が一堂に会した。

秋高・神崎先輩（78歳）の乾杯で始まった懇親会は和気藹々と進み、エールの交換で来年の再会を誓って閉幕した。

昨年、創部113年を迎えた両校野球部だが、深まり行く秋と同様、両校の絆が一段と深まった一日となった。

（明球会関東支部）

明善親睦ゴルフコンペ開催する

秋晴れの絶好のゴルフ日和に恵まれた平成22年10月6日、第4回明善同窓会関東支部ゴルフ大会が、千葉県長南カントリークラブで開催された。参加メンバーは、左記のとおり、7組27名であった（敬称略）。

記

OUTスタート

1組　諌山俊信　牛島　爽　広瀬雅彦　小林信子

2組　山下晴信　津城俊幸　山口光夫　小川卓三

3組　山口　務　古賀尚之　矢野康子

4組　本田匡史　伊藤美晃　原　寛　持松明弘

INスタート

1組　別府秀喜　古賀啓子　山口裕三　尋木浩司

2組　瀬戸　渡　嶋田　哲　前田信洋　岡崎ヒサ子

3組　高田　孝　秋山重司郎　上滝清隆　甲賀美智子

大先輩から61年卒の若手まで幅広い年齢層のプレイヤーが参加し、大変活況のコンペとなった。当日は、いつもの恒例どおり、大半の参加者が朝の6時半に東京駅八重洲口に集合し、貸切バスで長南カントリークラブに移動したが、バスの中でも年次を越えて話が弾み、明善高校の絆が深まったようであった。

コンペでは、各プレーヤーが日頃の練習の成果及び実力を十二分に発揮し、見事なショットを繰り出していた。結果は、55年卒の本田匡史先輩が見事ベスグロで優勝された。今回は、趣向を変えて各賞の賞品類にゴルフグッズ関連以外の賞品を数多く揃えさせて頂いたが、これはこれで喜んで頂けたようであり、表彰式も大変盛り上がった。アルコールが入った帰りのバスも大変に盛り上がったのは言うまでもない。

（ゴルフ委員会　昭和61年卒　尋木浩司）

関東支部ホームページリニューアル

同窓会関東支部のホームページをリニューアルしました。

アドレスは、http://www.jinryoku.com/ です。

ユーザID：meizen

パスワード：明善高校所在市名でログインしてみてください。

掲示板への書込み、写真や資料の書込み／閲覧、予定表、イベント案内などができます。

また、幹事会、同期同窓会での情報共有などにも使用できるので活用ください。

（ホームページ委員会　昭和45年卒　古賀尚之）

編集後記

帰省に合わせて改築前の母校に足を運び当時と変わらぬ面影を偲んだ。高校時代にタイムスリップし、たくさんの思い出、ひんやりした廊下の空気、中庭の落ち着いた風景、ついこの間に経験したような錯覚を味わった。

震災被害を同窓生も受けたとのこと。野球部後輩からは、高校時代に野球部で培った負けん気と根性で、一時も早い復興を目指して頑張ります、との返事があった。皆で応援したい。例年と同じではあるが、夏には関東同窓会、また秋には我々が幹事団を努める久留米の大同窓会が開催される。旧友たちとの再会、元気で明るい日々が送れることを感謝しつつ参加したいと思う。（昭和51年卒　内田直人）